

## 研究主題（仮）

学び合い，高め合う児童の育成

～体験・言語活動の充実を目指すためのICTの活用を通して～

### 1. 主題・副題の設定理由

#### (1) 今日の教育課題から

IT(Information Technology)に、「C」が入りICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)となり久しい。コミュニケーション能力の育成はバーバル，ノンバーバルにかかわらず，常に目指していくことである。

近年の情報通信技術，デジタル化技術の急速な進歩・発展に伴い，コンピュータだけでなく，携帯電話やスマートフォン，タブレット端末等のICT機器が広く個人にも普及してきている。このような現状の中，内閣に設置されているIT戦略本部より，平成21年7月に「i-Japan戦略2015」が発表され，教育・人材分野の目標を「授業でのデジタル技術の活用等を推進し，子供の学習意欲や学力，情報活用能力の向上」とし，教員のICT活用指導力の向上や，電子黒板等のICT機器を用いた分かりやすい授業の実現等が方策として掲げられている。これらのことから，21世紀を生きる子ども供たちにとって，コンピュータや情報通信ネットワークなどのICTを活用する能力，情報社会の進展に主体的に対応できる能力が必要とされている。

小学校学習指導要領の総則「第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」では，「児童が情報手段に慣れ親しみ，基本的操作や情報モラルを身につけ，適切に活用する」ために，教員が，情報手段を「適切に活用できるようにするための学習活動を充実する」とともに，コンピュータや情報通信ネットワークなどの「情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること」と記述されている。また，同要領解説総則編「第3章教育課程の編成及び実施」では，「これらの教材・教具を有効，適切に活用するためには，教師はそれぞれの情報手段の操作に習熟するだけでなくそれぞれの情報手段の特性を理解し，指導の効果を高める方法について絶えず研究することが求められる」と記述されるなど，教科指導等において教師による指導方法の一つとしてICTを活用することが求められている。

また，文部科学省（以下，「文科省」とする。）は，平成22年10月に学習指導要領が円滑かつ確実に実施されるよう「教育の情報化の手引き」を作成・公表し，続いて，平成23年4月には，「教育の情報化ビジョン～21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～」を公表した。その中には，教育の情報化が果たす役割の一つとして，教科指導におけるICTの活用が明示され，「2 教育の情報化が果たす役割」の中で，教科指導におけるICTの活用例が次のとおり示されている。

教科指導における情報通信技術の活用は，教員が，任意箇所を拡大，動画，音声朗読等を通して，学習内容を分かりやすく説明したり，子供たちの学習への興味関心を高めたりすることに資するものである。また，繰り返し学習によって子供たちの知識の定着や技能の習熟を図ったり，子供たちが情報を収集・選択・蓄積し，文書や図・表にまとめ，表現したりする場合や，教員と子供たちが相互に情報伝達を図ったり，子供たち同士が教え合い学び合うなど双方向性のある授業等を行ったりする場合にも有効である。その際，情報通信技術は，教員が子供たちの学習履歴を把握したり分析したりすること等にも資するものである。これらによって，子供たちが教科内容についてよりよく理解したり表現したりできるようになると考えられる。

これらのことから，学校におけるICTの活用は，

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

の、文科省が提示している学力の三要素の向上に資するものであるといえる。

山梨県の平成27年度指導重点では、『①知・徳・体の調和を重視し、「生きる力」を育む適切な教育課程の編制と実施に努める。』のなかで『(4)社会の変化に対応し、新たな価値を創造していく観点から情報教育・ICT活用、環境教育等を、また伝統や文化に関する教育の充実の観点から郷土学習を、学校教育活動の中に適切に位置付けて、その充実を図る。』とし、『②生涯にわたり学習する基礎が培われるよう、確かな学力を育む指導と評価に努める。』のなかで、『(3)体験的な学習や言語活動などを重視し、基礎的・基本的な知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等を育む。』としている。

## (2) 学校教育目標の具現化

本校の学校教育目標は、「学び合い 高め合う子どもたちを育てる」である。学び合う子どもとは、自分の考えをもち、集団の中で自分の考えを伝え合っていく子であり、高め合う子どもとは、授業や日常生活における学び合いの中で、友だちと関わりを通して、よりよい自分を見つけていく子である。そして、この学び合い高め合う子の育成は、各教科の時間・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間、特別活動など、学校の教育活動全体の中で育てられていくものである。

その学び合い、高め合うための糸口として、学校教育法に示された学力の三要素の「思考力、判断力、表現力」のうち、「思考力」と「表現力」に焦点を絞り、それらが高めることが「学び合い、高め合う」子どもの具現化につながっていくと考える。

さらに学び合い・高め合う子の実現に向けて、ICT機器の活用について研修を深めていく。教材提供や授業での考えの伝え合いなどお互いに高めていけるような授業づくりをICT機器の活用を通して考えていきたい。この基本的な考え方は特別支援学級にも同様に考えていきたい。今年度は自分の力量で何ができるかを考え挑戦し、教職員一人一人の実践を積み重ね、研究主題に迫ってきたい。

## (3) これまでの研究の経過から

これまで本校では、「対話」「伝え合う」「認め合う」をキーワードにした授業づくりの研究を行ってきた。昨年度は、「学び合い、高め合う生活科・理科学習の創造」を目指す研究を行ってきた。研究を通して課題となってきたことは、培った力を他教科でどのように活用させていくかということであり、日々の実践でさらに深めていくことにある。そこで、気付きの質をさらに高めるためにICT機器を用いてより具体的な問題提起や情報提示を行い、それまでの児童の体験と話し合いを含めた言語活動で織りなす学習活動を進め、理科教育で言われている「実感を伴った理解」の考え方などを参考にしながら他の教科・領域でも言語活動を生かした学習活動を進め、研究主題に迫りたい。

## (4) 関プロ視聴覚山梨大会

現段階で分かっていること

- ・平成28年10月28日(金)午後 授業
- ・甲府市小学校2校、中学校2校(幼・高校も視野に)を授業校としてお願いしたい。小中学校では各校3クラスは授業提供をお願いしたい。最新のICT活用に限らず、既存の機器を活用した授業提供で十分。日程など詳しいことはまだ分かっていないが、授業校での授業研究会などは想定していない。(現時点で)

## 2. 研究目標

ICT機器を活用した授業づくりを通して、子どもたちの体験的な活動や言語活動を充実させ、子どもたちの思考力、表現力を高め、学び合い高め合う児童の育成を目標とする。

## 3. 研究仮説

ICT機器を活用した授業づくりを通して、子どもたちの体験的な活動や言語活動を充実させ、子どもたちの思考力、表現力を高めていくことができれば、学び合い高め合う児童の育成ができるであろう。

## 4. 研究内容

### (1) 研究主題に迫るための教科、領域について

- ・各教科、道徳、学国語活動、総合的な学習の時間、特別活動などでICTを活用する。
- ・体験的な活動、言語活動を取り入れた授業づくりを通して、子どもたちの思考力、表現力の育成を図る。

### (2) 学び合い、高め合う授業づくりの方策について

- ・ICT機器を活用した効果的な資料提示を行う。
- ・話し合い活動、小グループでの学習活動にもICT機器を活用し考えの共有化を図る。

### (3) 評価方法について

- ・自己評価
- ・ポートフォリオ等で

## 5. 研究方法

### ◎ICT機器の活用をもとに、授業づくりを行う。

- 各個人、各学年、各ブロックの実態にあったICT機器の有効な活用を図る。

### ◎言語活動の充実

- 子どもたちが自分の考えや気付き、思いを伝え合うことで「学び合い、高め合う」場の工夫をする。(発表ナビの活用、ペア・グループ、学習感想)
- 見える化を取り入れた学習
- 学習プリントの活用

### ◎授業実践事例作成

- 一人一実践として、「ICT機器を活用した学び合い、高め合う授業実践事例」をA4二枚程度にまとめる。

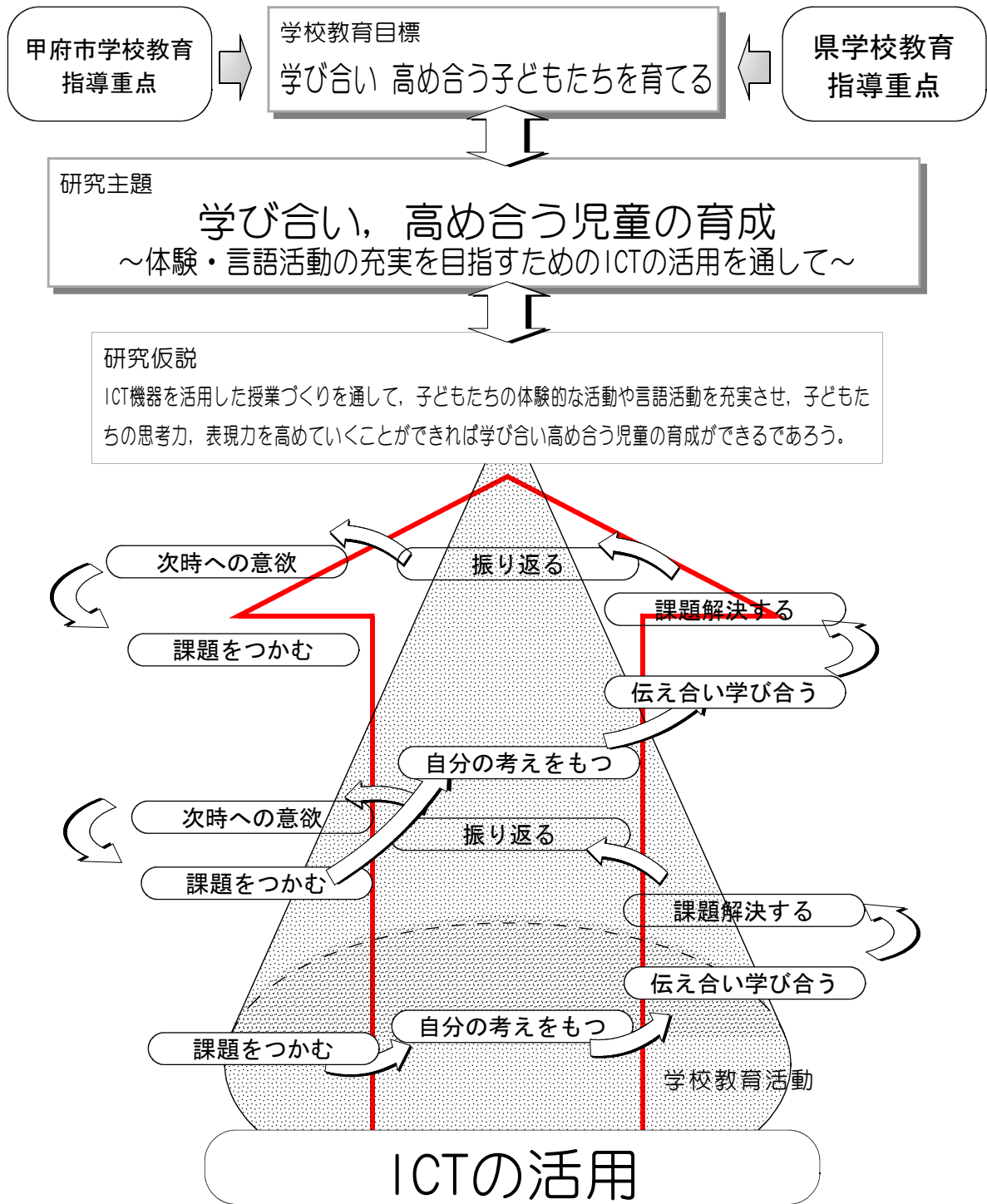
### ◎授業研究

- 指導案検討、3ブロックで行う。
- 研究授業

### ◎思考力・表現力を見取る評価方法の工夫

- 学習感想などによる評価
- 授業記録(OPPシートなど)による評価

6. 構想図



①課題をつかみ，②考えをもつ，③伝え合い，学び合う，④課題解決する，⑤振り返る，スパイラルに進んでいく学校教育活動全体のどの場面でも，ICT機器を活用し，視覚的にも，聴覚的にも共有化を図り，より深く，「学び合い高め合う」児童の育成を目指し授業づくり・授業実践を目指す。